【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

様式1（小・中）

学校名	唐津市立高島小学校

1　前年度 評価結果の概要	・最終評価は７項目、学校関係者評価は全９項目で「A：十分達成できている」との達成度（評価）であった。「B：おおむね達成できている」項目については、さらなる児童への意識付けと指導の徹底が必要である。 ・コロナ禍や自然災害時に備えて、学校全体でオンライン授業に積極的に取組み実践することで、児童・教員ともにＩＣＴ活用スキルが向上した。次年度は、オンライン授業で他校との交流を試みたい。 ・地域の方の協力で多くの体験活動を実施することができた。「サービスラーニング」の視点で本校の教育課程を捉え直し実践することで、「特色ある学校」「地域とともにある学校」に近付いている。今後も、高島ならではの特色ある学校づくりを推進していく。
2　学校教育目標	やさしく、かしこく、たくましく
3　本年度の重点目標	①登校することが楽しみになる学校づくり ②道徳性を磨き高島に親しみ愛する心を育む教育課程の編成 ③基礎的基本的学習内容の定着と活用力の育成 ④自らの健康の維持管理と体力向上

4　重点取組内容・成果指標　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○活用力の育成 ○全職員による共通理解と共通実践	○朝のスキルタイム90%以上実施 ○学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師2／3人以上	・語彙を増やすことや音声言語に慣れるために、週一回以上、音読や対話活動を実施する。 ・5～6年は算数の活用問題を1学期間に2回以上実施する。 教師間でマイプランを共有するとともに、校内研修で取組んだり、学期ごとに内容の情報交換を行ったりする。	A	・6年に学習状況調査対策として、環境を整えたことで、多くの情報の中から適切に必要な事柄を選ぶことができるようになった。 ・スキルタイムを週4回以上実施したため、90%実施できた。児童アンケートの「スキルタイムで読む・書く・計算ができている」で、「そう思う・だいたいそう思う」が85.7%だった。 ・5～6年は算数の活用問題を1学期間に2回以上実施できている。 ・2年は朝のスキルタイムで音読や言語表現活動などを行ったことで、言葉に関する興味が高まった。 ・個別最適な学びと協働的な学びの実現状況が1回目と比べて合計2,7ポイント上がった。	A	・先生方が努力されていることがわかる。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学期に1回、人権・同和教育の視点で道徳教育に取組む。 ○毎月、「なかよしアンケート」を実施して肯定的な回答の児童を6／8人以上にする。	・人権・同和教育の参考資料を基にして、各学年で指導を行う。 ・「なかよしアンケート」の中で、自分や友達のよさや頑張っていること、できるようになったことを記述する欄を設ける。 ・保護者や地域の方々と連携した体験活動を実施する。	A	・外部講師を招いての人権集会や、児童が主体となって平和集会を行い、全校で人権・同和教育に取り組むことができた。 ・全校で友達の素敵なところみつけを行った。全員の友達の良いところを見つける活動をすることで、互いのよさを知ったり、気付いたりすることができた。 ・毎月の仲良しアンケートをもとに、個人面談を行い個々の児童のケアを行ったり、自分のや友達のよさを紹介し合ったりすることで、肯定的な回答の児童が 6/8 人以上になり、自己肯定感を高めることにつながっている。	A	・継続していくことが大切だと思う。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○月１回、学活の時間を活用して担任と児童の個人面談を行い、気になることや悩み等を聞く。	・児童から得た情報を基に、月1回の児童支援委員会で情報共有を行い、全職員で問題解決を図る。 ・週1回の職員連絡会で、児童の様子で気になることがあれば報告し、いじめの未然防止に努める。	A	・月1回の児童支援委員会で全職員による情報共有を行い、意見交換をすることができた。 ・気になる児童とは、個人面談を行い、カウンセラーに繋げたり、保護者と面談を行ったりすることで情報共有を図り、いじめの未然防止や問題解決に努めた。 ・いじめの認知覚知共に0であるが、不登校については、支援中である。	A	・いじめがないのはよかった。日頃から仲良くしている姿を見かける。
	●児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上にする。 ●将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上にする。	・日頃から児童一人一人の寄り添い、良いところを褒める。全校朝の会等で紹介する。 ・将来の夢や目標をもつことの大切さについて語ったり、道徳教材で扱ったりする。	B	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童がどちらも71．５ %であり、目標を達成することができなかった。次年度は手立てを考え、数値があがるように努力したい。	B	・先生方は児童のよさを認められていとは思うが、人数が少ないため、パーセンテージが低くなっているのだろう。
	◎高島を親しみ、愛する児童の育成	◎年間4回以上、地域の人達と共に体験活動や地域と関連した行事に取組む。	・体験活動や地域と連携した行事と教科等を関連させ、地域へ貢献できる機会を設定する。 ・地域のひと・こと・ものに触れさせることで、高島のよさを考えさせていく。	A	・「地域活性化に取り組む人に学ぶ」ためにインタビューをした。実際に志を持って活動する人から実践方法を知ることができた。 ・「わかめの摘み取りと加工」を高島の人たちと行ったことで、高島良さと同時に今の現状を考える機会となった。 ・児童アンケート「高島のいいところを知り、もっと良くしたいと考えている 」で、「そう思う・だいたいそう思う」が100%だった。	A	・高島のいいところを知りたい・良くしたいと考えている児童が100%だったのはとても良い。もっと地域との交流を深めたい。
●健康・体つくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」と考えることができる児童5／8以上。 ○自分の身体に関心をもち、健康を維持していけるような知識を身に付けさせる。	・給食の時間などを活用して、献立内容に沿った栄養指導や食事マナーを全職員で指導する。 ・学期に1度の発育測定、学校三師による保健指導、保健だよりなどにより情報を発信する。	A	・児童のアンケートで「そう思う・だいたいそう思う」児童が5／7名だった。 ・学校三師および養護助教諭による保健指導については、発達段階に応じた内容で計画的に実施することができた。発育測定も学期に1度測定し、自分の成長に興味を持たせることができた。 ・健康に関する情報発信は保健だよりなどを活用して随時発信することができた。	A	・健康で元気があってよい。
	○望ましい生活習慣の形成	○早寝・早起きを意識して実行できる児童を5／8人以上にする。 ○積極的に体を動かそうとしている児童を6／8人以上にする。	・「生活リズムチェック」を活用し、睡眠に関する意識調査を実施する。 ・週に1度は20分休みに、ジョギングや縄跳び等の運動をする時間を設け、全校で体力づくりに取組む。 ・週に1度は全校レクの時間を設け、体を動かして遊ぶ楽しさを実	A	・児童アンケート「健康な体づくりのために業間タイムや昼休みには進んで体を動かしている」で「そう思う・だいたいそう思う」児童が6／7名だった。 ・2月に持久走大会を実施するにあたり、週に1度の20分休みの業間体育で10分間走に取り組んだ。	A	・家に帰りすぐに外遊びをする児童の姿が減った。宿題等を優先しているのはよいことであるが、地域との交流も大切にしたい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・各教育活動の目的を再確認し、カリキュラム編成を検討する。 データを共有し、次年度以降に利活用していく。	A	・職員が休んだり、補助教員が欠員になったりと年間を通して人員が足りない時でも、職員が同僚性を発揮して、協力して業務を遂行することができた。全職員が時間外在校等時間の上限を遵守することができた。	A	・土日にも仕事にこられている姿を見て頭が下がる。少人数なので、大変だと思う。

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
○教育環境の効果的な利用	○すべての教育活動でのICT利活用教育の推進	○週に2回以上、タブレット、PC等のICT機器（電子黒板を含む）を利用する児童を6／8人以上にする。	・授業の中や朝のスキルタイムで週に2回以上はICT機器を活用できるようにし、児童がICT機器に親しみ、その良さを実感できるようにする。	A	・新しい電子黒板も入り、各担任が新しい機能を使ってよりよい授業にしようと活用を心がけ、ほぼ毎日ICT機器を活用することができた。 ・児童アンケート「授業で毎日パソコンやタブレットをつかっている」で「そう思う・だいたいそう思う」児童が6／7名だった。	A	・児童のスキルが上がっているのがわかる。これからはICT機器を使うことは必須なので、今後とも続けて欲しい。

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・最終評価はおおむね「A：十分達成できている」との達成度（評価）であった。今年度新たに設けられた●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と●「将来の夢や目標を持っている」について「B：おおむね達成できている」だったので、次年度はさらに児童に伝わるような言葉かけや、将来への展望をもたせる意識付けや指導が必要である。 ・今年度は教育委員会の目標に準じて、昨年度よりもより積極的にICTを活用することができ、児童・教員ともに活用スキルが向上した。また、離島の学校と交流することもできた。 ・今年度も、地域の方の協力を得て多くの体験活動を実施することができた。島の活性化の一助となるよう、今後も、高島ならではの特色ある学校づくりを推進していく。